

多古旋風再び 36年ぶりベスト8!

第97回全国高等学校野球選手権千葉大会は7月10日に開会式が行われ、全170校が千葉県の頂点を目指し熱戦を繰り広げました。多古高校は春の県大会でベスト16に入り、今夏はCシードとして大会に挑みました。粘りの野球で順当に勝ち上がり、5回戦の流山おおたかの森高校との試合では終盤八回に劇的な逆転で勝利を飾り、強豪ひしめく戦国千葉でベスト8の成績を残しました。



ベスト8進出を決めた瞬間の多古高ナイン

2回戦 対 天羽高校 (長生の森公園野球場)



延長十回、貴重な追加点を放つ石川

多古	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3
天羽	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	2									5

1点を追う八回、多古は内藤の適時二塁打で2対2の同点に追いつき、延長十回には石川の適時打などで3点を奪い初戦を延長で制した。

3回戦 対 袖ヶ浦高校 (習志野秋津野球場)

袖ヶ浦	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0
多古	0	1	0	2	1	1	0	1	x	
	6									4

4対4の同点で迎えた六回、多古は2死三塁で石毛の執念の内野安打で勝ち越し、さらに八回に角田の適時打で追加点を加え苦しい接戦を制した。



俊足を生かしヘッドスライディングの石毛

4回戦 対 成田国際高校 (千葉県野球場)



五回から後を受け力投を見せた椿



四回まで無失点に抑えた左腕の清水

成田国際	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
多古	1	1	3	0	0	0	0	0	x	5
	5									0

多古は2点先制後の三回、角田の走者一掃の適時二塁打で突き放した。守りでは、3年生コンビ清水と椿の無失点リレーで5回戦進出を果たす。

5回戦 対 流山おおたかの森高校 (柏の葉公園野球場)

流山おおたかの森	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0
多古	0	1	0	0	0	1	0	2	x	
	4									3

終盤までリードを許し1点差で迎えた八回、2死から椿と香取の連続安打で一、二塁とし、その場面で石毛の左前打と椿の好走塁で同点に追いつくと、その後も好機が続き、2死一、三塁で主将鈴木が右前打で遂に勝ち越し。多古は劣勢をはね返す粘り強さで準々決勝進出に駒を進めた。



意地の勝ち越し打を放つ鈴木



同点のホームイン、キャッチャーをかわす椿

準々決勝 対 中央学院高校 (千葉県野球場)



スタンドを埋め尽くす大応援団とともに戦った多古高ナイン

中央学院	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0
多古	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3
	2									3

多古は四回、満塁の場面に山崎の内野安打で同点に追いつくも五回に逆転を許す。七回には1点差に迫り八回、九回も得点圏に走者を送るがあと1本が出なかった。準々決勝で敗れたものの、今夏の多古高校の勢いは凄まじく、町民に大きな感動を与えてくれた。

インタビュー



鈴木匠 主将

支えてくれた仲間「ありがとう」

いつも怒ってばかりで厳しいことを言っただけで、つたつたりした中でも文句を言わずにつけてきてくれた仲間。練習もきつく、野球をやめたいと思うほど精神的にも肉体的にも辛かった時に支えてくれた仲間がいたからこそここまで続けてくることができました。甲子園出場を目標に取り組んできてベスト8になってここからが勝負だと思っていましたが残念ながら敗れてしまい、もつとこの仲間と一緒に野球がしたかったです。ただ、今夏チーム一丸となって戦えたことに悔いは無いです。



迫屋昇二 監督

皆の力が合わさってのベスト8

今大会はチームとして「粘り」を目標に臨んだ中で、粘り強く勝ち上がることで目標を達成出来たのではないかなと思います。創部初のベスト4進出は叶



この夏「県立の星」となった多古高野球部